

聖



特117
40

法隆寺大鏡



第一集



欠

4110
40

に續ける東室僧房は數丈の改造を経て、殆ど原形を失し幾に骨子の
みを存するに過ぎず、要するに本殿は僧房本位の建築を利用して、
其の側面たりし妻を正面に構へ、庇を擴大し向拜を付して、春日造
風に轉化せる妙趣を發揮し、佛教趣味の神殿建築を創始せるものと
云つて可なり、内陣の厨子并に須彌壇は皆黒漆塗として莊嚴の致を
とり、前に修法壇を配せるは法相宗もまた密教の爲に浸漸せられた
るを表す、皇朝文化の開拓者、千古希有の偉人、しかも身は儲貳の
貴きを以てして、未だ國家的崇敬の典に與かり給ふことなく、遺靈
永へに此殿内にましますを見ては、誰か至誠よりして叩頭禮拜せざ
るを得んや

四、五、六、聖德太子像

正面側面背圖 高二尺七寸五分

聖靈神殿の御影を説くは畏けれど、假相影向の御姿もまた上求菩提
の緣なきにしもあらざれば、略其大槩を述べん、御像は木造にして
朱華の彩色を施し、上に藤原時代に通用なる裁金の大紋をつくり、
其間を目録抄に以金泥畫折入之文と云へる如く同じ裁金小模様にて
填めたり、色の朱華なるは御物の像に於けると同じく、漢土儲貳の
服制にして、太子夙に隋唐の制度を輸入したまひし時、之を服して
先覺者の例を垂れたまひしならん、此服色は後の世までも太子像の
動かぬ表率となりぬ、頭には巾子ある冠を蒙り、巾子の前には其の
昔太子物部臣と戦ひ給ひしとき、多聞天像を頂髪の中に安んじて大
勝を得給ひし因縁に鑑みて、同じき像を立てたりと云へど、今は逸
して彫り付けたる刻の跡のみを存す、御像の執筆生形は、太子一代

の御事蹟中に尤も名高き勝靈經講讀の様を寫せしとのことなれど、
御講讀は御年三十五歳と四十五歳との兩度であり、古今目録抄は最
後の時の御影といひ、白拍子は最初の像と拜せりと記す、今姑く古
傳に従うて四十五歳となさんか、濃墨もて畫ける鬚眉の嚴めしさと
眼睛の半は上瞼に隠れたる心地は、丹花の唇と相映して、威容の
端嚴譬へんかたもなく、生身の聖とはかゝる御姿にやと拜かまざる
ばかりなり、其製作年代は白拍子に天仁年間神殿再興のとき修理せ
るよしを載せ、尙以前に在るべく思はるれど、別當記には保安二年
十一月廿七日開眼供養すといひ、又治承二年八月五師覺印が太子佛
供米寄進狀には、先代天仁之比中略令造太子御影仕者等之像五林並
構造其精舍一字安置之而號聖皇院者也と云へるに見れば、天仁の修
理に非ずして、全く新造に係れりとして可なり、覺師の名は本寺の
古寫經堀河天皇の寛治四年七月のものとして降りては崇徳天皇の永治元
年十月のものにも見えたれば、天仁の頃は親しく其事を目睹したり
と覺しく治承二年の頃には少くも百歳に近き長壽にて生存せしこと
、思はる、更にこの覺印師が太子の胎内に安置したる救世觀音像並
に蓬萊座、其他五師隆運が奉納寫經に據りて之を推せば、天仁新造
の説益、確確として動かす

七、八、九、救世觀音菩薩像並蓬萊座

胎内藏 正面側面背圖
佛像 高八寸一分
座 高九寸四分

十、十一、法華經、勝鬘經、維摩經

(胎内藏)

太子の胎内藏たる佛像並經卷に就ての記録は、また古今目録抄に又

太子御身中救世觀音像居奉^{金銅}御眼當太子御目御心書法花勝鬘維摩三經龍納云々を嚆矢とすれども、其親しく之を實證し得たるは、實に明治卅八年の春御影修理の時にあり、始め吏務別當經尋御影安置の際、此金銅一探^手半の救世觀音像を胎内に籠め奉らんとして、新に疊がき清め、蓬萊山を作りて其上に安んじ、さて如何にして籠納むべきかを思案せるとき、五師覺印いまだ未蒙ながら才覺に秀てたる人なれば、早速に工夫を廻らし、觀音の御面を以て太子の眉間に配し、始めて動きなく之を籠め得たりといふ、像は一見して知らるゝ如く太子時代の名品、蓬萊山は之を繪にしては御府の壽繪箱も存すれど、形に刻める藤原時代の作品は、唯この一つあるのみ、其朽木形を重ねて造れる山容は、次の鎌倉時代に四天王の須彌山座、若くは地藏菩薩の岩座の先驅を爲すもの、また彫刻史上の好資料たり、胎内藏の經卷三種即ち法花、勝鬘、維摩經は、太子の最も尊崇せられて其註疏さへも著はされたるもの、特に胎内に納めんため、黄紙の上下兩段を分ち、蠅頭だもしかざる細楷に認めて、法花を二卷自餘を一卷にまとめ、さて三連筒形の箱を造り、これを横截して身と蓋とを分ち、内部は朱漆外側は黒漆にて塗り、繫くに胡蝶形の金物を以てし、三卷相並べて其中に納まるの装置を施せり、勝鬘維摩兩經合寫の卷尾には、筆師法隆寺住僧隆暹敬白と書す、隆暹の傳記詳かならざれど、本寺藏貞元釋教錄卷第二の奥書に大治四年正月八日書寫了爲二世與樂致丹誠書寫法隆寺一切經料也執筆專寺住僧隆暹とあれば、此時を距る遠からざる天仁御影安置のとき、又胎内經書寫の任に當れるを知るべし。

十二、山代大兄王、殖栗王像

山代大兄王 高二尺〇七分
殖栗王 高一尺七寸五分

十三、卒麻呂王、惠慈法師像

卒麻呂王 高一尺七寸五分
惠慈法師像 高二尺一寸五分

太子御影の左右に四人の侍者あり、古今目錄抄に三人侍士也^{王子高麗}、僧惠慈、袈裟持香呂太郎王子持如意、二郎王子持念珠、宮三郎王子持御大刀、乍三人鬢類不垂、大兄王子者、袈裟裝自餘二人者、紐帶也と云ひ、全く現在の姿と一致す、又其命名に就ては三人皇子者、大兄山背王、殖栗王、卒麻呂王也と云へり、此名に由りて觀れば、大兄山背王のみは、太子蘇我馬子の女を娶りて生ませ給ふ所、殖栗王は太子の同母弟、卒麻呂王は太子傳補闕記及傳曆に稱する所にして、法王帝説の乎麻呂古田王と爲せるあり、そはとにかく太子の王子たる持如意的山代王は他の太子の弟君たる二王子よりは、寧ろ年少たるべき筈なるに、形像は之に反して丈も高く容貌もいたく大人びて造られたり、これ不思議の一つ、又太子には春米女王を始めとして十四人の子女はするにも拘はらず、獨り山代王のみをとりて其他に及ばず、却て其弟君を二柱とりて配したり、これ不思議の二つ、いまだ解説の明らかなるを聞かざれば、姑く目錄抄によりて其名を定めつ、惠慈は即ち高麗の人、太子授法の師なり、四像何れも木彫、厚き下地の上に彩色を施し、更に鍍金模様を以て裝飾せり、當初は目もあやなる研麗を極めしこと、今も尙菱形石疊形の鍍金模様、紙面に現はれ出てた

るにて知るべし、如意は黒漆の柄、念珠の宮は平座寶相華の壽繪、大刀は同じく鳳凰の壽繪なり、惠慈法師の柄香爐のみは後の補修に係れり、臺座の臺座并禮盤は何れも後世元祿頃の新聞にして、安置の大鉢を示すに止まる、世に残れる藤原時代の佛菩薩像は數へ盡すべくもあらず、されど生身を寫せる尊像は此を指してまた何處にか求むべき、藤原時代の鮮麗優美の裝飾は、繪畫に之を求むべしと雖も、之を彫刻に求むればまた此像と金堂の毘沙門天吉祥天を算するに過ぎず、聖靈殿中央の一劃は方にこれ藤原彫刻の精華を蒐めたるものといふべし、

十四、十五、地藏菩薩像

正面背画 高二尺五寸四分
臺座高九寸三分

十六、十七、二臂如意輪觀世音菩薩像

正面側画 高壹尺肆寸四分
臺座高八寸六分

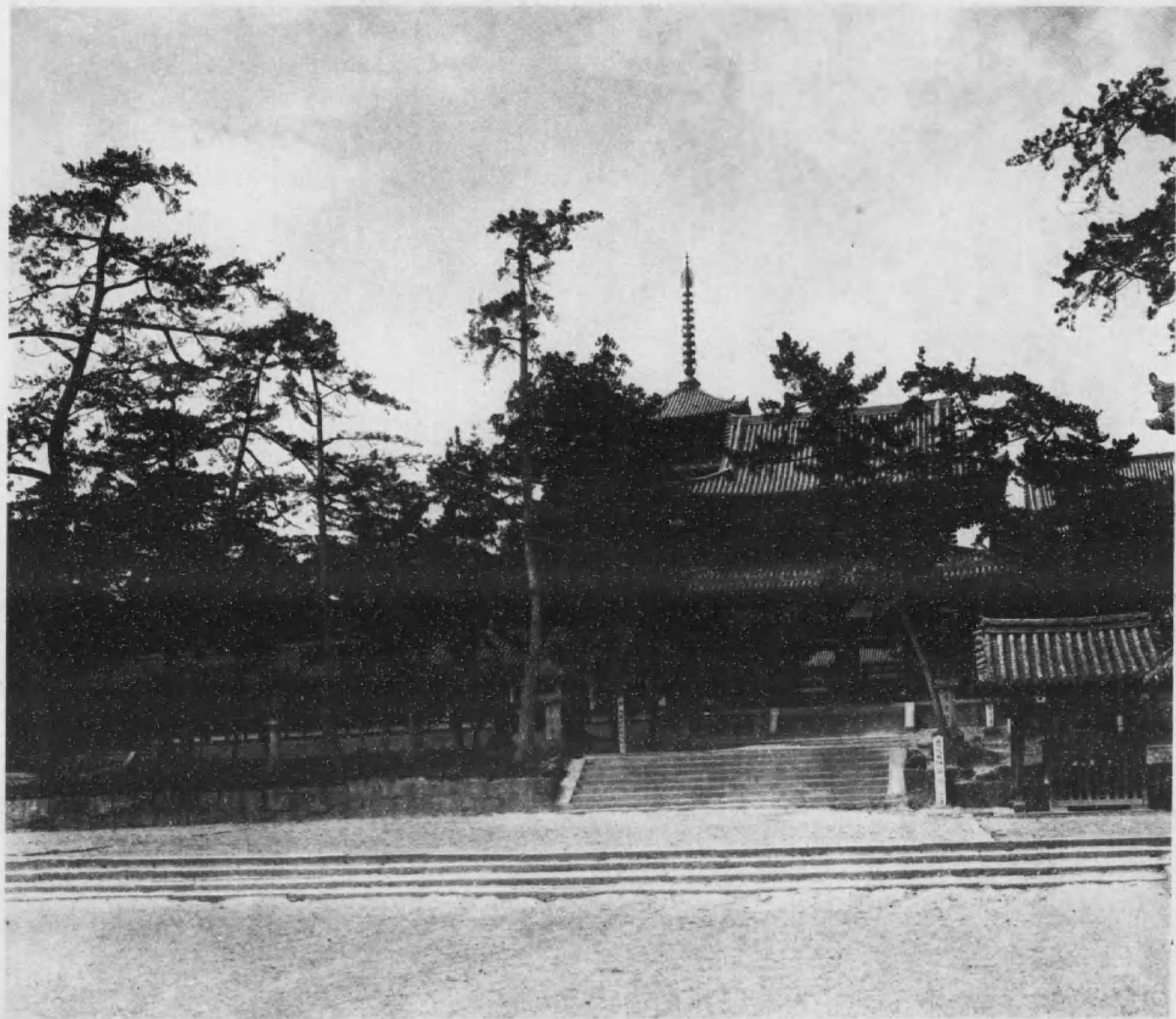
聖靈院はもと太子及四侍者を安置し、其内部の構造も正面一間のみなりしが、建武二年春夏の交、之を三間に割し太子を中央にして其の左脇間即ち東殿には聖皇曼荼羅を懸け、右脇間即ち西殿には二臂如意輪觀音を安置す、其後足利時代の頃にや曼荼羅を撤して、金堂なる地藏尊を請し來つて之に代ふ、即ち現今安置の地藏尊是也、地藏觀音共に弘法利生の本尊にして、殊に觀音の化身は太子との古傳説あれば、相俟つて脇殿に配せらるゝは其故なきにあらず、地藏尊は白檀木の一木造にして、恐らく本邦現存の同尊中尤も優秀なるもの一なり、蓮花座また同時の作に係り、胡桃形反花の遺妙なるは

他に比類を見ず、之を承けたる圓形入角の臺座は徳川期の補作なり、二臂如意輪觀音また藤原時代の漆箔像にして、思惟の相を表せる二臂像としては、既に遺古の式に負ふ所あると共に、當時は勿論後世までの其類例を見ず、全身被衣の姿は唯仁和寺の文殊に之を髣髴すべきのみ、いまだ本殿に安置せられざる以前補修を加へられしと見えて、裳懸臺座の内面に永仁三年乙三月十日始奉修復之處也爲生々世々值遇頂戴今生必得發菩提心兼二親聖靈頓證菩提乃至法界衆生平等利益矣 敬白 永仁三年卯月大法師慶壽と墨書す、慶壽は法隆寺の佛師なり、其彫像及補修を經たるもの尙他に其例あり、光背は純然たる徳川期の附加にして背面に朱漆もて奉再興觀世音菩薩御光並主廣譽普照上人普光院壽法 背元祿九丙子天九月十八日とあり、

二十、御物 平絹摺文

原寸

織物に文様を施すの技は、奈良朝時代に至りて其盛を極む、夾纈といひ籠纈といひ皆文型によりて染色したるもの、一見趣致の横溢するは自ら織文の及はざる所あり、圖に示せるはまた文型に據りて摺り込めるもの、後の鬘繪の手法とよく似通へり、これ恐らく文様を現はすに尤も便捷の法たりしならむ、奈良朝の文様は花木鳥獸を自在に使用し、殊に連繫のものよりは淡合のものに其特色を發す、此裂實に斷片に過ぎずと雖も、寶相華の咲き亂れたるに、小鳥の向を換へて配せられ、其花鳥相親むの光景は、宛然一幅の畫を見ると感を同くし、あかも其淡合的に造り出されたるは、即ち其巧に文様化せられたる所なり



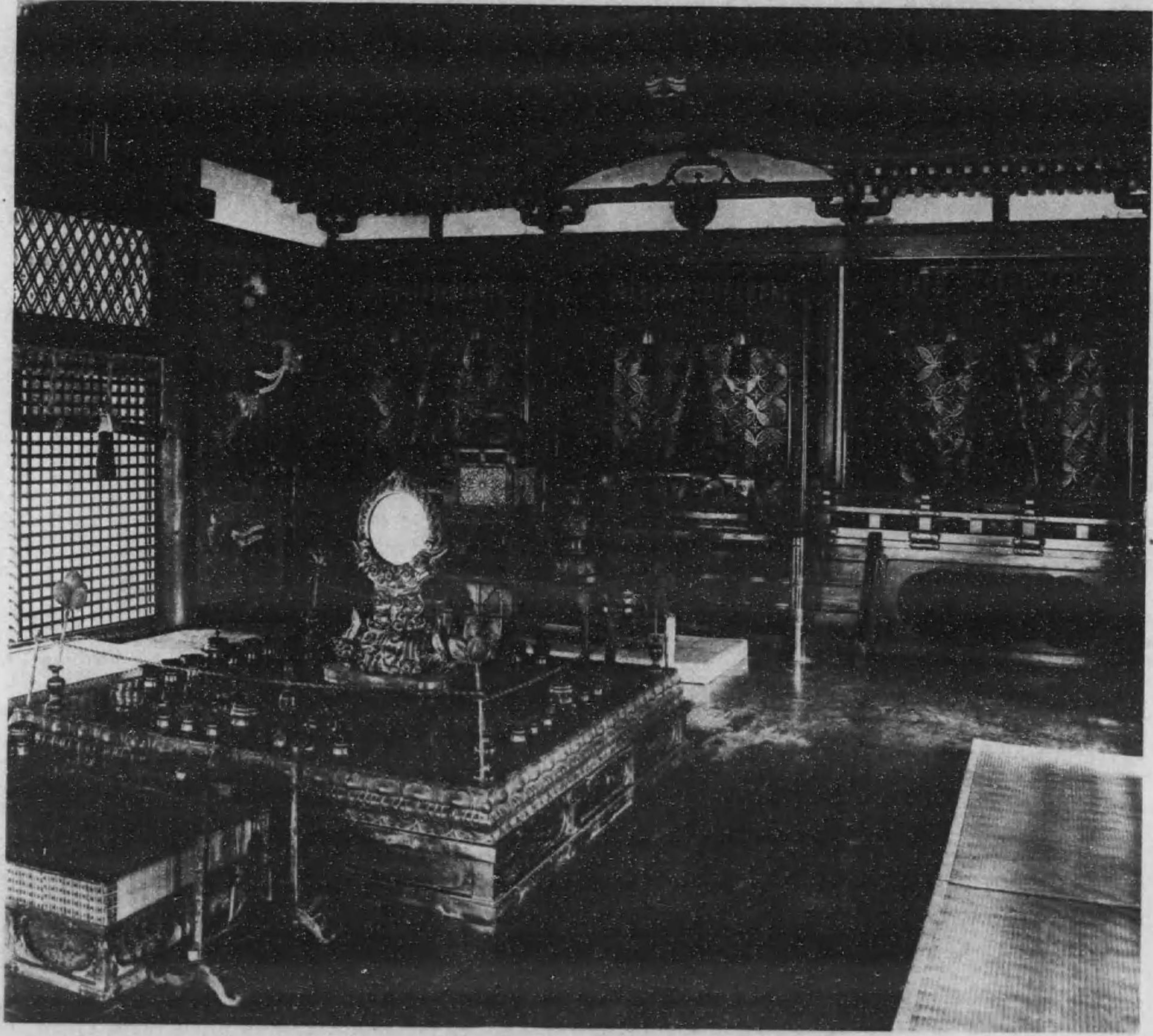
法隆寺外観

法隆寺外観



寺

院 密 華



高野山

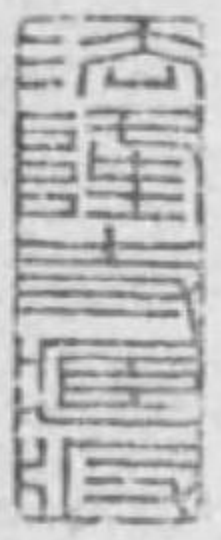
聖雲院内陣



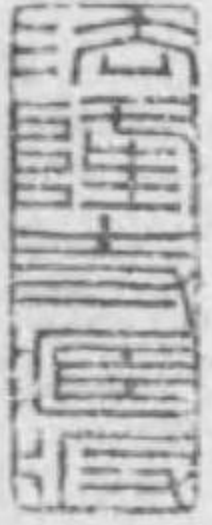
像坐子太宮上彫木尊本院靈聖



像坐子太宮上彫木尊本院靈聖



聖靈本院尊木形上宮太子坐像



座栗蓬彫木及薩菩音世觀銅金藏內胎子太宮上尊本院寶奉



座菜蓬彫木及薩菩普世觀銅金藏內胎子太宮上尊本院藏舉



座菜蓬彫木及薩善音世觀銅金藏內胎子太宮上尊本院靈聖

此書係在... 卷之... 第一... 第二... 第三... 第四... 第五... 第六... 第七... 第八... 第九... 第十... 第十一... 第十二... 第十三... 第十四... 第十五... 第十六... 第十七... 第十八... 第十九... 第二十... 第二十一... 第二十二... 第二十三... 第二十四... 第二十五... 第二十六... 第二十七... 第二十八... 第二十九... 第三十... 第三十一... 第三十二... 第三十三... 第三十四... 第三十五... 第三十六... 第三十七... 第三十八... 第三十九... 第四十... 第四十一... 第四十二... 第四十三... 第四十四... 第四十五... 第四十六... 第四十七... 第四十八... 第四十九... 第五十... 第五十一... 第五十二... 第五十三... 第五十四... 第五十五... 第五十六... 第五十七... 第五十八... 第五十九... 第六十... 第六十一... 第六十二... 第六十三... 第六十四... 第六十五... 第六十六... 第六十七... 第六十八... 第六十九... 第七十... 第七十一... 第七十二... 第七十三... 第七十四... 第七十五... 第七十六... 第七十七... 第七十八... 第七十九... 第八十... 第八十一... 第八十二... 第八十三... 第八十四... 第八十五... 第八十六... 第八十七... 第八十八... 第八十九... 第九十... 第九十一... 第九十二... 第九十三... 第九十四... 第九十五... 第九十六... 第九十七... 第九十八... 第九十九... 第一百...

卷之... 第一... 第二... 第三... 第四... 第五... 第六... 第七... 第八... 第九... 第十... 第十一... 第十二... 第十三... 第十四... 第十五... 第十六... 第十七... 第十八... 第十九... 第二十... 第二十一... 第二十二... 第二十三... 第二十四... 第二十五... 第二十六... 第二十七... 第二十八... 第二十九... 第三十... 第三十一... 第三十二... 第三十三... 第三十四... 第三十五... 第三十六... 第三十七... 第三十八... 第三十九... 第四十... 第四十一... 第四十二... 第四十三... 第四十四... 第四十五... 第四十六... 第四十七... 第四十八... 第四十九... 第五十... 第五十一... 第五十二... 第五十三... 第五十四... 第五十五... 第五十六... 第五十七... 第五十八... 第五十九... 第六十... 第六十一... 第六十二... 第六十三... 第六十四... 第六十五... 第六十六... 第六十七... 第六十八... 第六十九... 第七十... 第七十一... 第七十二... 第七十三... 第七十四... 第七十五... 第七十六... 第七十七... 第七十八... 第七十九... 第八十... 第八十一... 第八十二... 第八十三... 第八十四... 第八十五... 第八十六... 第八十七... 第八十八... 第八十九... 第九十... 第九十一... 第九十二... 第九十三... 第九十四... 第九十五... 第九十六... 第九十七... 第九十八... 第九十九... 第一百...

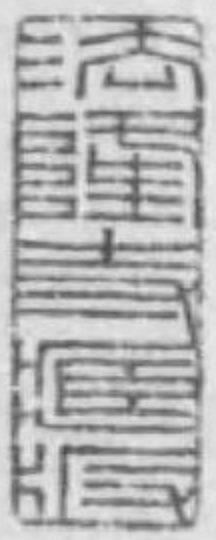
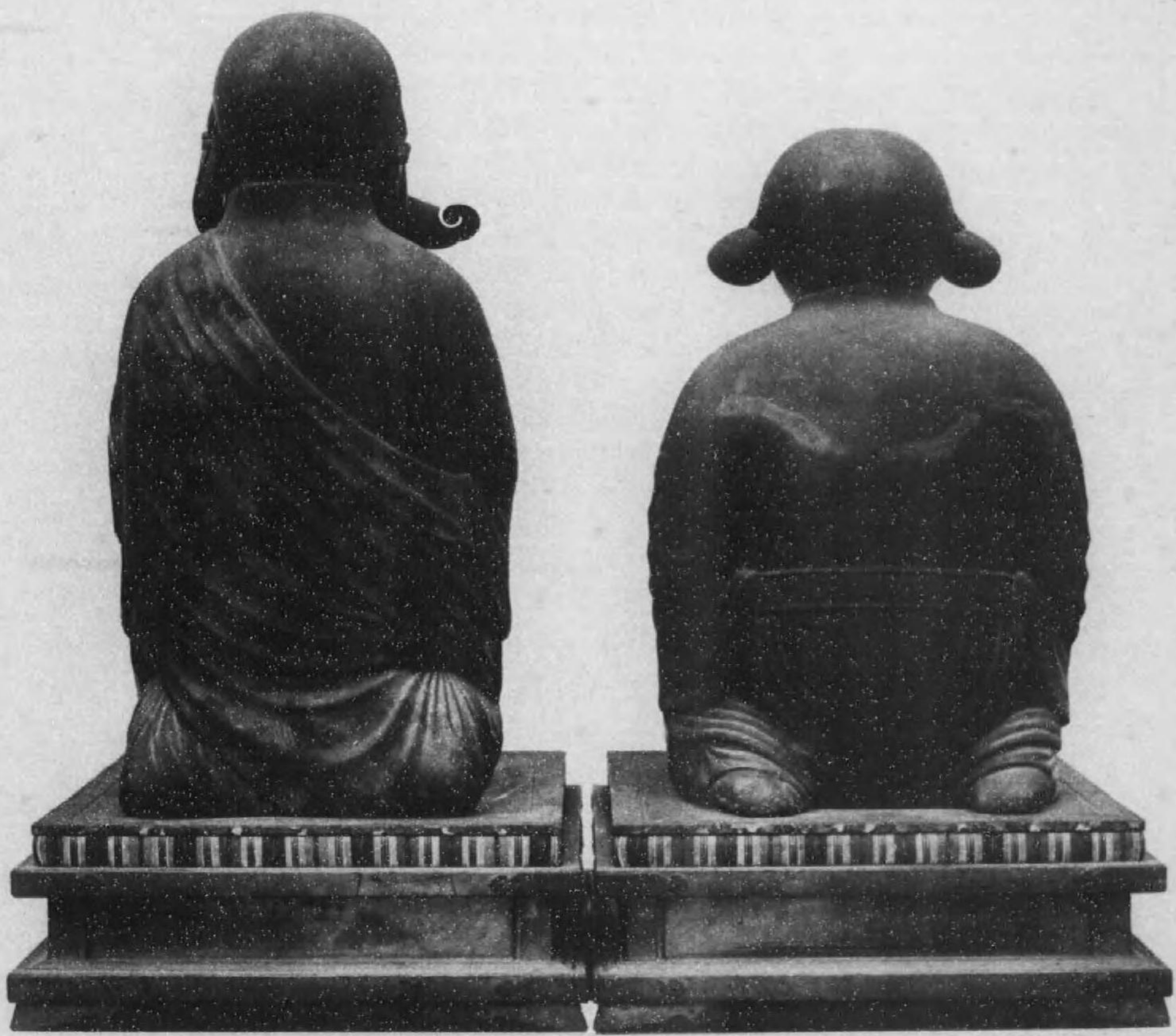
... 卷經歲內胎子太宮上尊本院安堂

宮上尊本院安堂

卷經歲內胎子太宮上尊本院安堂



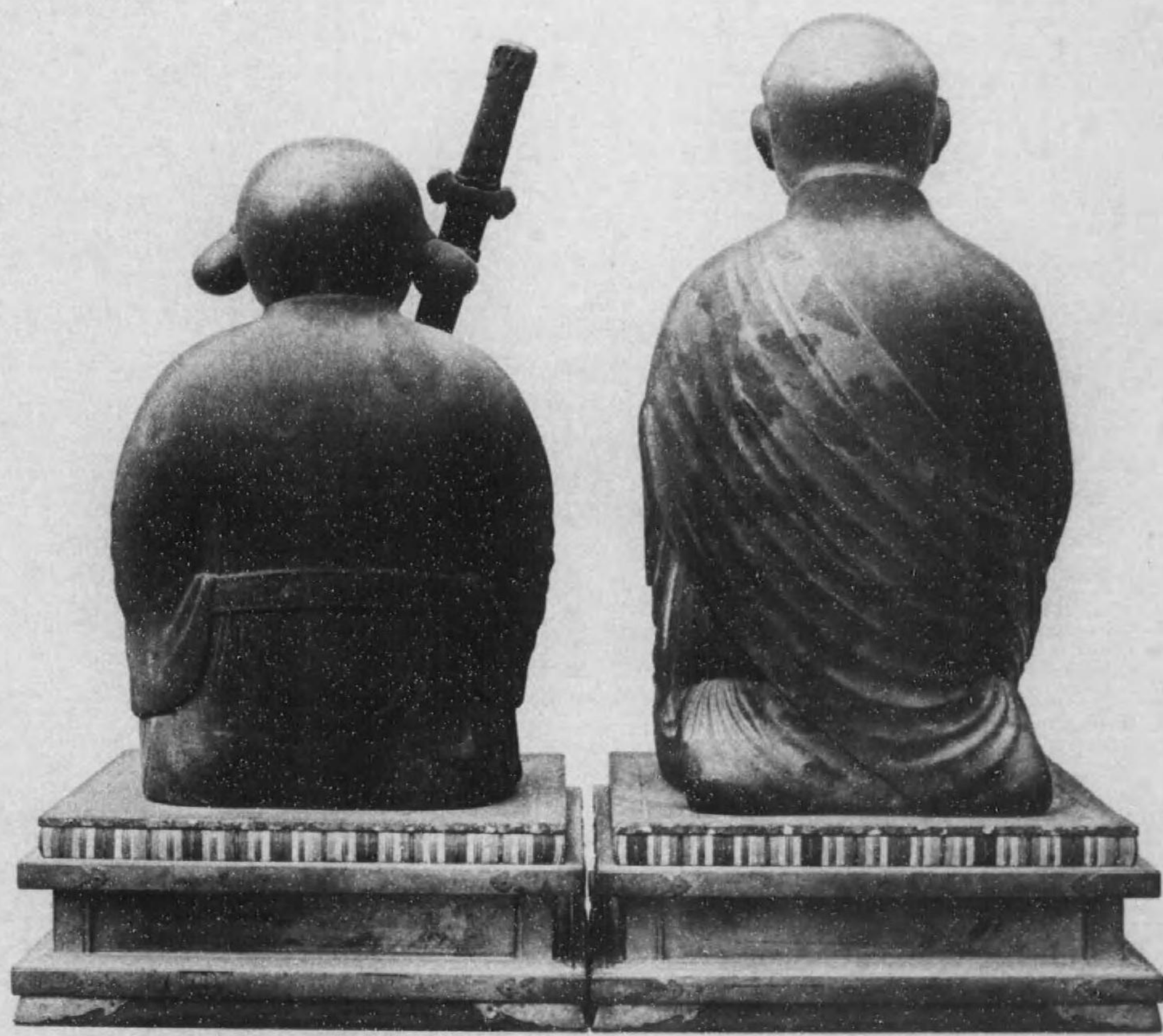
像坐王兄大背山及王樂頌彫木侍換尊本院崇聖



聖靈本院袂侍木彫碩栗王及山背大兄王坐像



像坐王古昌麻乎及師法慈惠彫木侍扶尊本院靈聖



像坐王古呂麻乎及師法慈惠影木侍挾曾本院密聖



像立薩菩薩地影木殿寶東院靈聖



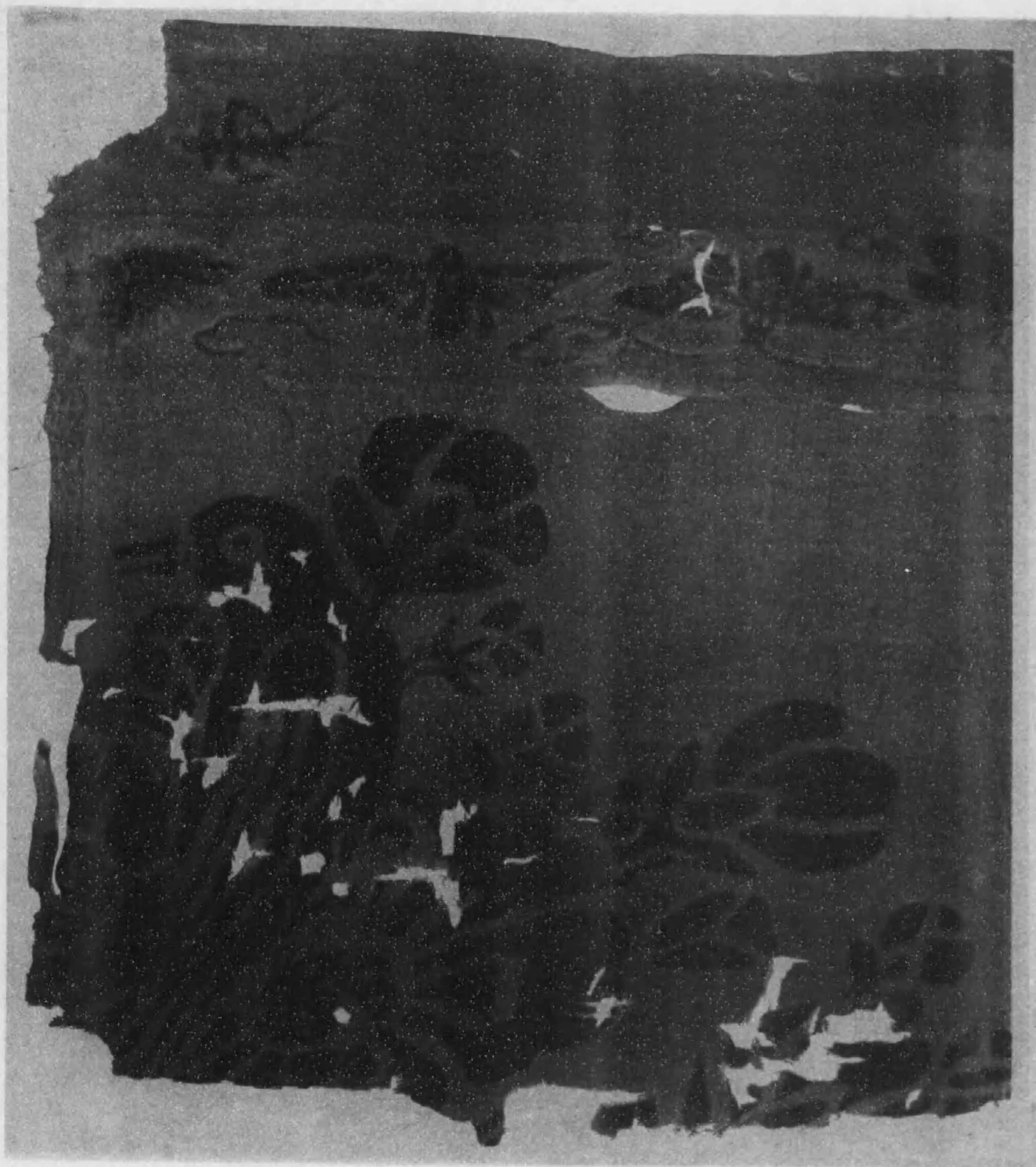
像立薩菩藏地彫木殿寶東院靈聖



像加半發善世觀輪意如胃二彫木殿寶西院靈崇



像迦半薩普世觀輪意如臂二彫木殿寶西院密崇



御物摺文平掛

大正二年十一月廿六日印刷
大正二年十一月廿九日發行

(非賣品第一集二十枚)

編輯兼發行者

白石村治

東京市下谷區上根岸町百廿二番地

印刷者

武田勝之助

東京市下谷區中根岸町六十八番地
墨彩堂

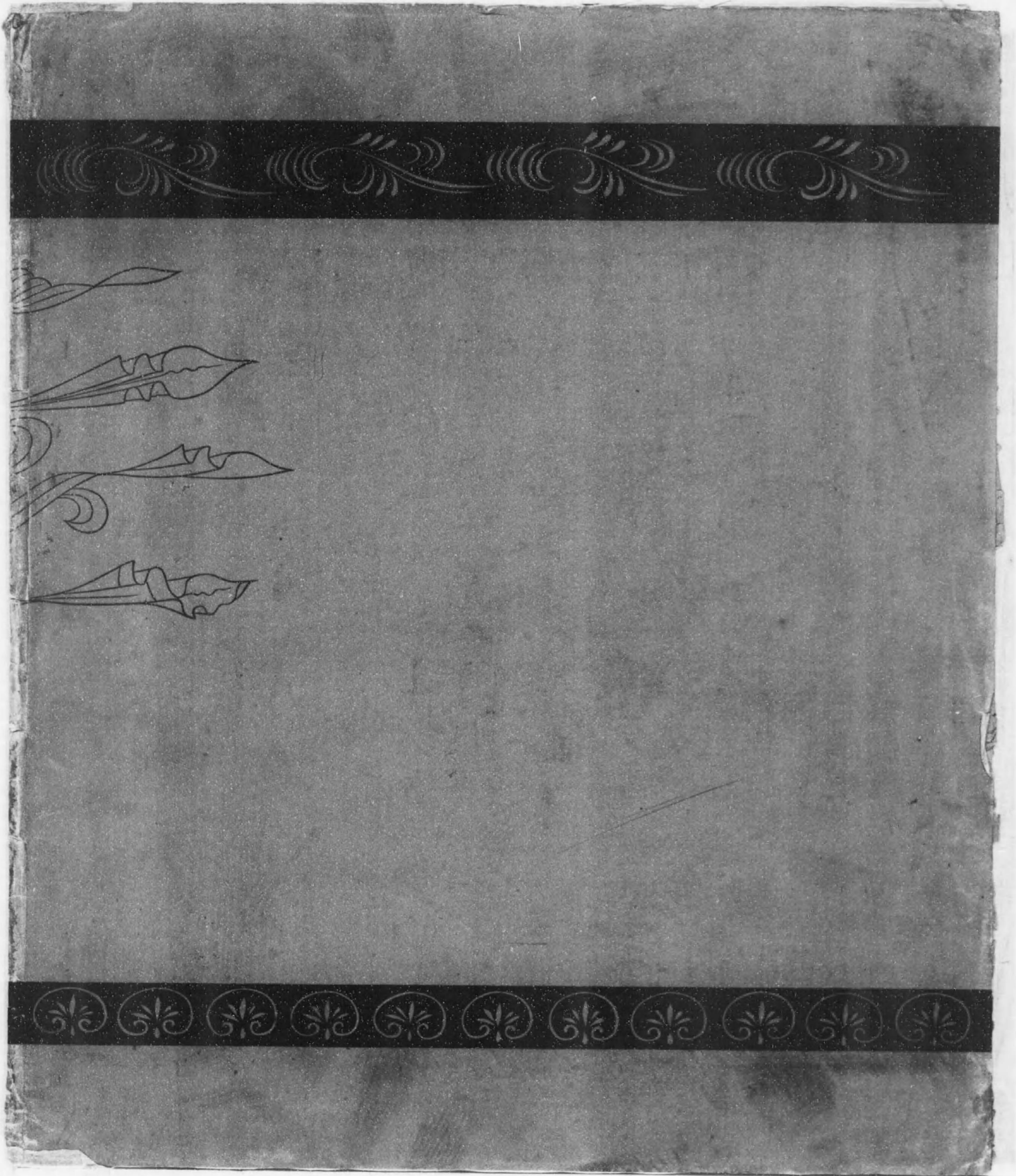
發行所

東京美術學校文庫

東京市下谷區上野公園

報社口庫番號東京六四七號

株式會社秀英印刷



終